

## 茨城大学「教育の質保証」システム構築の物語

## 1 大学の教育は誰のもの？

— 大学評価の歴史と茨城大学型マネジメントの萌芽 — …………… 16

日本の大学の古き良き牧歌的風土／何をもって大学の教育を評価すればよいか／大学の教育を評価したいのは誰か／「自己点検・評価」に始まる大学の評価制度／ポローニャ・プロセスにおける第三者機関の保証／国立大学の法人化がもたらしたものは／迷走する大学法人の評価制度／ふくらむ評価の要求と大学の評価疲れ／評価制度は進まぬ大学改革への尻たたきか／教育マネジメントの萌芽／教育は自由でなくては／大学評価の始まりと茨城大学／現場のマネジメントを支援する／日常の活動に「質」を組み込む／教育の質の評価は誰のために？

コラム 茨城大学の成り立ち 57

## 2 全学の教育目標をつくる

— 「何もしない大学」を変えたディプロマ・ポリシー — …………… 58

全学共通の茨城大学3ポリシー／大学の大衆化と臨教審が描いた教育の将来像／「我が国の高等教育の将来像」と3兄弟の誕生／「学士課程答申」ーディプロマ・ポリシーの台頭／主体的になれない日本の大学／市民・人間・人材／つぎはぎだらけの違法建築物／「何もしない大学」と言われて／茨城大学のディプロマ・ポリシー／全学の目標と学部目標／教育の主観的評価という本質

## 3 「教育の質保証」とは何か

— 学修データと大学運営 — …………… 98

大学運営における「IR」とは何か／アメリカの大学におけるIRと「エフェクティブネス」／日本の大学におけるIRの普及／大学評価と内部質保証／Teaching Learning Managing／「学歴」偏重社会の問題点／「学歴」に代わる「学習歴」とは何か／「コンピテンシー」の可視化／法人化後の「補助

金」の波／大学戦略・IR室の始動／大学教育再生加速プログラム／学修成果をどう測るのか／ディプロマ・ポリシーの達成度を測る

#### 4 質保証の現場と物語の力

ーデータの「弱い活用」とコミュニケーションー……………142

全学部の担当者が登壇したFDから／教育と学修は現場で起きている／データをノルマにしない／データの「強い活用」の落とし穴／ボトムアップ型の「弱い活用」／場ときつかけとコンテンツ／「弱い活用」を支える信頼の構築／「推し」は「全部」／「茨城大学コミットメント」／コミットメントブックとコミットメントセレモニー／セレモニーの開幕／学生の満足度を高める「物語」の力／ここにも反映される「弱い活用」

#### 5 教育の成果はどう現れたか、そして未来へ

ー実現した「チーム茨大」が目指すものー……………187

質保証の取り組みへの評価／ディプロマ・ポリシーの達成度の上昇／大学で学んだことは仕事で活かされる／学修成果の高まりをどうとらえるか／実は「傍流」の茨大型質保証／コロナ禍において力を発揮したチーム茨大／授業の理解度・満足度の把握／測れること、測れないこと／茨城大学型質保証の今後／満々たる野心のための偉大なるルーティン

## 第2章 「実践編」

### 内部質保証システムはこうつくる

#### ー組織的・継続的な教育マネジメントへの提言ー

ポイント1	「困りごとがない」現場こそが困りごと	224
ポイント2	学生の自己評価は学修の位置情報	227
ポイント3	ボトムアップが全体最適への流れをつくる	233
ポイント4	学生の授業評価は判断理由が重要	238
ポイント5	データはコミュニケーション・ツール	240

ポイント6 I R室は「おいしいデータづくり」の台所 242

ポイント7 変わる学生、変わる教員 246

ポイント8 学生への学修到達点の意識づけ 249

ポイント9 大学のコミュニケーション力を高める

外部の目 251

ポイント10 課題は常に解決するためにある 253

おわりに 258